

和 而 不 同

盆踊りではなく、情報に踊らされた今夏。コロナ・熱中症……。繰り返す話題に振り回される反面、無関心でもいられない。直接自身に関わり、周囲にも影響を与えるからだ。心のゆとりを保つには、受け手のほどよい「捌き^{さば}」が肝要である

▼メディアリテラシーという言葉がある。テレビ・新聞などメディア各媒体から発せられる情報を主体的に読み解く能力のことだ▼夕方の報道番組、同じニュース素材であっても、チャンネルを変えればまるで別物に映る▼擁護風・批判風・中立風、いずれも絡む事情を根拠に人為的に「つくられた」ものに過ぎない。ただ、あたかもそれが「全て」かのように錯覚する癖が時にある▼思考停止状態。情報が極端に単純・複雑・あるいは大衆迎合の要素であればあるほど、鵜呑みしがちではないだろうか。また繰り返しによる慣れ（飽き）や、逆に切羽詰まる状況であればなおさらだ▼「石橋を叩いて渡る」。日常の場面次第では必ずしも良い印象ではないこともある。しかし、情報が溢れた暮らしの中では、大切な要素だ。これは臆病でも停滞でも無い。相手を知り、自身の間合いを保つ手段である。まず話を聞き受けた上で「捌く^{さば}」。咀嚼^{そしゃく}したほうが丸呑みよりは消化しやすいはずだ〔徳〕

各方面で世情が動いた8月。つつい気を取られそうな時ほど、肝心の“忘れ物”がないようにしなければなりません。
(若院)